

Follow up

会長の時間9 – 理事会詳説と仁徳天皇陵案内板にまつわる話

本日、今月の理事会報告を週報に掲載していますが、その中から堺8 RC 寄贈仁徳天皇陵案内板について触れさせていただきます。

毎月1回、堺の8 RC クラブ会長幹事が集まり連絡会として、情報交換、調整事項の相談等を行っています。先月この会で堺清陵 RC から「当クラブ会員から仁徳天皇陵案内板が痛んでいてみともない、どうにかしないのか」との意見が同理事会に寄せられ、設置も維持保険料も堺8 RC によるものという事で本件が堺8 RC 連絡会に持ち込まれました。場所は、仁徳天皇陵真正面に向かって左の案内板です。

元々は昭和40年代に堺 RC と堺南 RC が共同で3枚の案内板を設置しましたが、それぞれの形式が異なったのと経年劣化がひどく貧弱になっていたところ、昭和61年の全国植樹祭に昭和天皇が行幸される事となり、この際リニューアルして再寄贈しようという話が当時の8 RC で纏まり、工期3ヶ月予算200万で建設となりました。

現在、全景写真部分が結構劣化しています。今後堺8 RC の皆さんとの協議で検討して参る訳ですが、結構厄介です。土台はしっかりしていますが、世界遺産登録の財産の案内板と言う意味で、これで良いかは意見の分かれるところです。更に所管が実は宮内庁、中々手間暇かかる官庁、況や史実に問題もありその解説文が今のままで良いかの問題もあります。

仁徳天皇陵と大仙古墳は同じですが、ご案内の通り仁徳天皇陵に仁徳天皇が埋葬されているのかが明らかではないのです。もちろん宮内庁は認めるはずがありません。大仙古墳は平安時代の延喜式という書物の中で、仁徳天皇の大きなお墓があるという記載がされており、これまで仁徳天皇陵と呼ばれてきました。しかし大仙古墳の隣にある履中天皇陵が、調査の結果こちらの方が古いということが明らかとなったそうです。つまり、父の墓よりも息子の墓の方が古いということ。宮内庁では、学術調査ですらその立ち入りを厳格に規制していますので中々明らかにできず、という事で大仙古墳（伝仁徳天皇陵）が精いっぱいな訳であります。色々やっかいなのですが8 RC 各理事会でも検討し、その総意を持ち寄って今後を決めていこうという事に目下なっています。当クラブ理事会の所見は、討議の結果週報記載の通りで、次回8 RC 連絡会に臨む事となりました。

いずれにせよ歴史の教科書にも出てくる「世界最大級の墳墓」、宮内庁の厳重な管理で現在は陵域内への出入りは出来ないのですが、ところが驚愕の事実を伺いました。寺崎会員から。同会員ご幼少のみぎり古墳係員のお誘いで仁徳天皇陵にボートにて渡り分け入り、葎撮りにお入りになったとか。するとレンガ色が残る出土品、埋葬関連品と思しき土器類が辺り周辺に無造作におびただしく散在していたとの事でした。中に入れた事、その状況、今では到底目に出来ない光景でただただ驚嘆するばかりです。

因みに履中天皇陵のすぐ近くにある“いたすけ古墳”実は昭和30年（1955年）9月まで個人所有でその頃、土砂の採集と住宅造成のため破壊される事になったそうです。当時、

古墳の破壊は珍しくなく、市も資金難で買い取る事も出来ず、市民運動が起き結局寄贈の未、国指定遺跡となり保存されました。その持ち主こそが実は我々の大先輩、柴田精一郎さんでした、当クラブ会長はもちろん1992年の1回目大澤ガバナーの時の地区代表幹事を務められました。これは中田会員にお聞きし、先輩会員が古墳を私有していた事実に驚愕した覚えがあります。

本日はこれにて。おやかましゅうございました。

2020年9月10日第九例会 会長の時間にて 東野裕暢